

平成26年度第5回「墨田区子ども・子育て会議」 「乳幼児ワーキンググループ」議事要旨

日時：平成26年6月17日（火）午後6時30分～8時30分
会場：墨田区役所 122 会議室

次 第

1 開会・オリエンテーリング

内 容	資料No.
・今日の会議の進め方	

2 討議

内 容	資料No.
<ul style="list-style-type: none"> ・特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営基準（案）と地域型保育事業の設備と運営の基準（案）の報告 ・教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の量の見込み、補正、確保策について 	資料 1 ～ 資料 8

3 その他

4 次回の予定

日 時：平成26年7月15日（火）午後6時30分～8時30分
会 場：すみだリバーサイドホール会議室（区役所1階）
主な議題：事業量の見込み及び事業の確保策等

配布資料

- 資料1 量の見込みと確保策の検討（量の見込みの補正検討）＜教育・保育＞ 未確定
- 資料2 量の見込みと確保策の検討（平成26年度実績に対する過不足数）＜教育・保育＞
未確定
- 資料3 量の見込みと確保策の検討（量の見込みの補正検討）＜教育・保育＞ 未確定
【グラフ資料】
- 資料4 量の見込みと確保策の検討（量の見込みの補正検討）＜地域子ども・子育て支援事業＞
未確定
- 資料5 量の見込みと確保策の検討（量の見込みの補正検討）＜地域子ども・子育て支援事業＞
未確定 【グラフ資料】
- 資料6 墨田区子ども・子育て支援ニーズ調査 実績値と量の見込み 未確定
- 資料7 モデル施設数から見た量の見込みと確保策の検討
- 資料8 平成27年度量の見込みと確保策（予定）
- 参 考 特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営基準（案）と区の現状・区の考え方
- 参 考 地域型保育事業の設備と運営の基準（案）と区の現状・区の考え方

出席者(敬称略)

○委員

長田 朋久 (横川さくら保育園長)
西島 由美 (にしじま小児科院長)
杉浦浄澄 (江東学園幼稚園副園長)
財津 亜紀子 (文花子育てひろば施設長)
佐藤 まり子 (ムーミン保育室施設長)
賀川 祐二 (NPO 法人 病児保育を作る会代表理事)
貞松 成 (株式会社 global bridge 代表取締役)
佐藤 摩耶子 (公募)
荘司 美幸 (公募)
多胡 晴子 (公募)
荒木 尚子 (緑幼稚園長)
青塚 史子 (太平保育園長)

<欠席委員>

高嶋 景子 (田園調布学園大学子ども未来学部子ども未来学科准教授)
本多 美絵子 (両国幼稚園副園長)
徳野 奈穂子 (公募)

<傍聴>

なし

○課長出席者

小倉 孝弘 (子育て支援課長)、鈴木 一郎 (子ども課長)、村田 里美 (子育て支援総合センター館長)

○事務局出席者(検討チーム含む)

浦辺・井場・遠藤・松本・長山・水野・坂田・梅原・吉田・田村・酒井

○事務局(株)地域総合計画研究所

森井・大鹿・佐々木

1 開会・オリエンテーリング

委員	本日は始めに、以前、議論した基準案について、区から報告を受けた後、量の見込みや確保策について検討していきたい。
----	---

2 討議

(1) 特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営基準(案)と地域型保育事業の設備と運営の基準(案)の報告

事務局	(参考資料を説明) (これまでの乳幼児ワーキンググループ(以下、WG)や親会議で出された意見を反映した案を最終版として提示し、区の考え方、会議の検討結果の反映の部分について説明)
委員	小規模保育所の職員部分について、その型によって保育士と保育従事者で使い分けているが、何か意味があるのか。同じ意味であれば、表記を統一した方が良いのではないか。
事務局	国の基準案の関係で表現は違うが、中身は両方とも常勤の保育士である。統一した方が良いという意見であれば、表記は「常勤の保育士」としてB型の方で統一する。
委員	職員数の数え方について、小数点以下の扱いはどうなっているか。
事務局	区の小規模保育の施設の基準があり、その基準に準じて行っていく。 なお、この基準の条例については、9月議会にて条例提案し、9月末の最終本会議で議決予定である。そのため、6月議会の保育園を扱う委員会へ委員会資料として提出し、概要を報告する。

(2) 教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の量の見込み、補正、確保策について

事務局	前回までに提出した資料と重複するものがあり、前回説明できなかった資料を説明する。
事務局 (地域研)	(前回の配布資料を簡単に説明した上で、資料2・7を説明)
事務局	0～2歳の枠を増やす方法としては、小規模保育の方で対応するのが実際的と考えられる。その場合は、3歳に上がる時の受け入れ先を作っておかなければならない課題が出てくる。4～5歳は待機児童はほぼ無く、かつ北部の保育園は余っている状態である
委員	現状は4歳、5歳は余っているのに、何故、南部にニーズとして数値が出たのか。
委員	働くのを諦めた人のニーズが数値として出てきたのではと推察される。
委員	小規模保育は、保育料が高いのではないか。
事務局	(小規模保育と認証保育所について、現在の利用料や新制度移行後の内容について説明)
委員	料金の問題と3歳以降の行き場所の問題が解決されれば、0～2歳は小規模保育でも良いかもしれない。
事務局	(現状と量の見込みに等ついて資料8を説明)
委員	ヤクルトの事業所内保育は地域に開放されているのか。
事務局	ヤクルトレディの募集の中に事業所内保育所があると記載はされているが、現在、地域に開放されているかどうかは不明であり、認可外で区が関与していない施設もある。他にも、

	<p>区に補助等の相談もなく、自身の判断でやっている事業者もある。</p> <p>事業所内保育所は何件か区からアプローチしたが、場所や従業員の居住地のことから、難しい。現状で、区内では事業所内保育は当てにできないと考えた方がよい。</p>
委員	<p>事業所内保育は、車通勤が適しているため、都内や区内では難しいのではないか。</p>
事務局	<p>墨田区で事業所内保育はヤクルトしかないし、他は、二つの病院で院内保育所があるだけである。また、事業者が共同でマンション等の一室を借りて事業所内保育ということで可能だが、共同となると、責任や負担割合でなかなか難しいのが実態である。</p>
委員	<p>ニーズ調査結果からは、事業所内保育のニーズは高くない。この数字からは、今の幼稚園に認定こども園になってもらって、0～2歳の枠を増やすしかないのではないか。</p>
委員	<p>今の幼稚園には対応する余裕はないにしても、これから作るとしたら認定こども園をつくられた方が将来的にはニーズに合わせられる。保育園だけ作っても、子どもが少なくなったら空いてしまうだけになる。</p>
委員	<p>小学校の空き教室を利用した運営は可能か。</p>
事務局	<p>学童クラブも不足しており、小学校の一クラス人数の少人数化へという中で、なかなか難しい現状にある。小学校は入学者を必ず受け入れなければならないため、入学の子がいないと判断できれば貸してくれるが、一度貸すと返してくれないとなり、なかなか難しい。</p> <p>区立幼稚園が認定こども園に移行することは流れとして考えられる。ただ、区立幼稚園は、3歳児がなく4・5歳のみで、場所や職員数の問題で難しい。</p>
委員	<p>広さを確保していれば、人数を確保することで定員を増やすことはできるのか。</p>
事務局	<p>実際に部屋が空いていれば理論上は出来るが、保育士採用など実務的な課題がある。</p>
委員	<p>空いているスペースがあれば、既にそういう対応は取っている。現状では目いっぱい入れて足りていない。</p>
委員	<p>既設は難しいとしても、これから新設の施設は、そうした融通は可能ではないか。</p>
事務局	<p>新設の3園の内、1園はビルのワンフロアを借りるということで枠が決まっている。2園は事業主の土地活用で、確認申請も出されこれから着工のため、現段階からの設計変更は難しい。</p>
委員	<p>3～5歳児の空いている部屋を活用するという事は考えられないか。</p>
事務局	<p>0～5歳の施設を新設した場合、4～5歳を定期利用として利用を埋めることの可能性はある。ただし、2年間の限定ということとなる。</p>
委員	<p>区としては3歳児からの受け入れが欲しいため、3～5歳だけの保育園を作るという話にならないか。認定こども園を作るとなると、今の保育園は空きがないため、幼稚園児を入れる余裕がない。新しく作るとなると、幼稚園と保育園の子どもを入れなくてはならず、敷地的にも250坪くらいは最低必要となる。</p>
委員	<p>この会議は、5年後にどうするという方針を決めるため、私立がやらない場合は、これだけの数値の定員を公立が確保するという事を、会議のどこかで宣言することが求められる。そうしたことに向けての調整を幼稚園等と行われているのか。</p>
事務局	<p>保育ニーズも求められているため、供給がなければ区立の施設から移行する必要があると考えている。また、他区の状況を見学に行くなど研究し、園長との検討会も行っている。今後、墨田区として保育所整備計画を作る予定である。</p>

委員	<p>私立が認定こども園に移行する場合、現在の園舎を全部建て替えないとできない。さらに、園舎を建て替えたとしても今度は園庭が足りなくなる。そのため、私立はやりたくても手が出せないのが実情である。</p> <p>一番の課題は園庭の確保、次に職員配置が異なるため、職員の確保・体制の問題がある。</p>
委員	<p>他区では、小学校を借りる契約をして運営するとか、小学校を活用して運営するとかの事例や、公設民営等の方法もある。</p>
委員	<p>他区では、小学校と認定こども園とがうまく共存している。隣同士に保育園と幼稚園とがあり、そうした地域性があるから出来ている。墨田区は施設が離れていて、しかも細かく離れているので、状況的に一つの大きなものを作るのは難しい。</p>
委員	<p>親としては、子供に教育的なことも受けさせたいとの考えから、認定こども園へのニーズは高い。</p>
委員	<p>私立幼稚園が認定こども園に移行するための調整は、今年度末までに行って欲しい。</p>
委員	<p>園長会では、各園長の方針や独自性がある中で、移行の話は出ている。</p>
委員	<p>他の地域では、幼稚園は施設のハード面で認定こども園に踏み切れていないし、私立保育園はソフト面で踏み切れていない。更に、教育で幼稚園に勝てるのか、教育ができるのかといったことを懸念されていると聞く。保育園が連携型に入る方が施設面からはハードルが低い。幼稚園と区が協力して、認定こども園のモデルケースを作ってみてはどうか。</p>
事務局	<p>私立幼稚園が認定こども園になるのが難しい状況であれば、公立保育園が幼保連携型認定こども園になった時に細々した課題はあるが、職員の免許の状況からやれない事はない。今後、区として計画の中で推進していくのが大事なことと捉えている。</p>
委員	<p>保育指針も教育要領も同じように足並みをそろえて一つになろうとしている。数合わせの5年間の計画だけではなく、しっかりした教育理念を持った施設の一つでも作ってほしい。</p>
委員	<p>子どもが入れなくて困っている保護者がいて、事態はもっと緊迫しているのではないかな。</p>
委員	<p>来年、0歳の35人が不足しているという数値だが、認定こども園に入りたいという数を合わせると約60人となるが、これをどうするか。本当に不足していれば、保育料が高くて預ける。高くても預けていけば2~3か月後には保育園に入れる。</p>
委員	<p>60人足りないからと言って、実際にはその60人が申し込むかということは別だと思う。数値は数値として踏まえ、60人ということだから60人を用意する考えではない。本当に困っている人は、どこかに預けるなど懸命にやりくりしている。</p>
委員	<p>保護者の子どもへのお稽古事へのニーズから認定こども園へのニーズはあるが、数字的にそれ程足りないということではないのではないかな。</p>
委員	<p>1歳のニーズが足りないということが知れ渡って、それでは0歳から入れたいということで0歳のニーズが高まったのではないかなと思われる。</p>
事務局 (地域研)	<p>数値の頭を押さえているため、27年度の数値だけではなく、5年後の数値もみてほしい。</p>
委員	<p>地域型支援事業の給食の部分で、連携施設での搬入も可となっているが、1歳児園の連携園では離乳食が難しい状況にある。こうした話があった上で可となったのか。</p>
委員	<p>調理師を一人雇う分の公定価格は出ている記憶がある。家庭的なキッチンはあるだろうし、作る人が独立していれば大丈夫だったかと思うが、次回、話をしたい。</p>

事務局	前回のWGで話が出た一時保育等については、次回、話をさせていただきたい。
委員	<p>今回は、どの施設をいくつ作るかという大まかな区の考え、たたき台を出してもらい、それが現実的にどうかといった議論をしたい。基本的には、区が計画をこの委員会に示すというよりは、この会議で区民の目線でこのような計画を作ってほしいということを提言してまとめたい。区が最終的に判断する。次回、そうした視点で議論したい。</p> <p>また、今回は地域子ども・子育て支援事業から議論を始めたい。</p>

4 次回の予定

事務局	今回は7月15日(火)、18時30分から区役所1階のリバーサイドホールの会議室を予定している。
委員	事業者に対する意向調査の締切りが7月11日のため、その情報も可能であれば盛り込んで、次回、議論したい。

以上